



常務執行役員

田村 薫

Kaoru Tamura

不況を乗り越えた技術

日本経済は2回にわたるオイルショック、急激な円高、バブル経済の崩壊など、危機的状況を幾度となく経験してきました。そして最近では2008年秋のリーマンショックに端を発した世界的金融不況により、経済は長く低迷し、未だ回復途上にあります。

山洋電気はこれまでの歴史の中で魅力的な価値を創造するために、さまざまな改善や取り組みをおこない、新しい製品を開発して、これらの不況を知恵と努力で乗り越ってきました。

1927年に無線通信用電源の開発から始まり、1952年に国産第一号のサーボモータの開発、1955年に国内初の無停電電源装置、1967年に冷却ファン「San Ace」の量産を開始し、そして1971年にステッピングモータ「Step Syn」の量産化を開始するなど、業界に先駆けて新しい製品を開発してきました。新しい技術に挑戦し他社の追随を許さない独創的技術により、業界No.1の製品を市場に投入することで、何度となく不況を乗り越えることができました。

不況の時期こそ、こうした大きな革新、手法そのものを刷新する抜本的な革新を実行に移す好機でもあります。企業は、うまく稼働しているときには、なかなかやり方を大きく変えることはできず、時間的な余裕を持ってないという物理的な事情もあります。しかし、不況のときこそ新たな手を打つことで、不況期の暗闇を抜けたあとに、市場での新しいチャンスを獲得することができます。

不況を乗り越え、次世代でビジネスを獲得する技術に求められるのは

1. 独創的であり、特許などの優位性を持っていること
2. 先見性があり、未来を創造することができること
3. オンリーワン技術であること

などがあげられるでしょう。

私たちの先輩の意志は今でも継承されており、毎年次々と新製品を開発し市場に投入しております。

山洋電気は「全ての人々の幸せをめざす」という企業理念のもと、「地球環境を守るための技術」、「新しいエネルギーの活用と省エネルギーのための技術」、そして「人の健康と安全を守るための技術」という、3つの技術テーマをベースに新技術・新製品の開発に取り組んでいます。これらの技術こそ、これからの市場で求められるものであり、景気に左右されない独創的な魅力ある製品になるでしょう。

また、事業部における「モノづくり」についても同様に、1980年代後半以降、円高を背景に製造業各社が海外生産に移ってゆく中で、国内にて省力化、自動化に取り組み、技能ノウハウを蓄積し培ってきた生産技術、独自技術を生かし生産革新をおこなってきました。

本誌には、これまで各事業部において取り込んできた不況を乗り越えた技術が掲載されています。今後ともこのような技術を確実に継承していくことが、遭遇するかもしれない不況を必ずや乗り越えていけるものだと確信しております。